

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人エムアール会		
事業所名	グループホームグリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1-41 (電話) 011-773-1311		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年6月29日	評価確定日	平成19年7月12日

## 【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年12月 8日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	29 人 常勤26人, 非常勤3人, 常勤換算26.05

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1~3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000~68,000 円	その他の経費(月額)	20,000円 (暖房費11月~3月) 5,000円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,350 円

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	6	要介護2	7		
要介護3	9	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 85.5歳	最低	71歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮岸医院 コア歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームグリーンピアは、緑に囲まれた環境に位置しており、JR駅・バス停へのアクセスが10分以内と、家族等の訪問にも便利である。ホーム内は明るく広々としており、共用部分はバリアフリーで、要所には手摺りが設置され、居室にはクッション性の高い材質の床材を施すなど安全性に配慮している。ホームの壁には利用者の作品や季節の装飾品が飾られ、テーブルには季節の花を飾るなど家庭的で暖かな雰囲気を感じられ、利用者は、穏やかに毎日の生活を楽しんでいる。管理者の真摯な姿勢が幅広い年齢層の職員に反映し、職員全員がサービスの向上に熱意を持って取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念をパンフレットに載せ、従来よりも文字を大きくしてホーム内に掲示するなど分かりやすくし、訪問頻度の低い家族宛に介護計画書を郵送し、サインをもらうなど、できることから改善に取り組んでいるが、錠をかけないケアの実践など検討中の事項もまだある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を踏まえて、自己評価の実施には職員全員で話し合いを重ね取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、現在までに4回実施されている。ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。今回のサービス評価の結果も次回の運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、さらに、サービス向上に生かしていくつもりである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。不満や意見が出た場合は、その都度管理者と職員が話し合い、運営者に伝え解決するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや保育園の運動会に参加し、近隣の小学生も遊びに来ており、当ホームの利用者の作品も展示されている。地域にはチラシで周知し参加を呼びかけている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、実践していく役割を反映した理念にするため、従来の理念に、「地域の中でお互い協力し、支えあう暮らし」を加えた新しい理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には、毎月のユニット会議はもとより、日頃より理念を伝えている。全職員のネームプレートの裏には理念が記されており、日々確認し、実践の中で活かす努力をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや保育園の運動会に参加し、近隣の小学生も遊びに来ている。同法人施設全体での夏祭りや文化祭などの行事が毎年開催されており、当ホームの利用者の作品も展示されている。地域にはチラシで周知し、参加を呼びかけている。	○	現在、ホーム玄関前に掲示板の設置を計画中なので、広報誌などの掲示を通じての情報発信と、運営推進会議を通じて、地域の方々に行事参加を呼びかけていくことを期待したい。
<b>ki</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には職員全員で取り組み、外部評価の結果を踏まえ、できることから改善に取り組んでいる。	○	評価の意義の理解と活用に関して、会議や個々のミーティングを通し、全職員の共通理解を深め、更に改善に努力していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在までに4回実施されており、ホーム側からの報告とともに、参加者からの意見・要望を受け、双方向的な話し合いを行っている。また、昨年度の外部評価結果も報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度開催される区の管理者会議で、区の担当者と意見交換をしており、市の担当窓口にも月に2回は訪問し、積極的に情報提供を行なっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族連絡帳に利用者一人ひとりの状況を毎週記載し、家族の来訪時には目を通してもらっている。また、利用者の状況について話をし、緊急時には電話連絡している。同法人の本部で作成している広報とホーム独自の広報が、各々年4回発行され、郵送されている。出納明細については3カ月に1度郵送している。	○	普段訪問機会の少ない家族宛に、現在の広報誌に加えて、毎週の家族連絡帳の内容のコピーや抜粋したものを郵送するなど、毎月、1回は、家族宛に情報発信していくことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に対しては、気軽になんでも話し合える雰囲気作りに努めている。不満や意見が出た場合は、その都度管理者と職員が話し合い、運営者に伝え解決している。	○	家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会づくりのために、無記名でのアンケート実施や、意見箱などの設置を検討していくことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化しており、職員が離職した場合は、新たに配置された職員を利用者に紹介し、信頼関係が保てるように配慮している。	○	担当職員の離職に関しては、利用者への配慮とともに、家族等への不安にも配慮して、手紙などによる状況説明や報告を、きめ細やかに行っていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内部の研修が年に3、4回あり、職員は全員受講している。区の研修会にも年に15人位の職員が参加している。研修後の報告は管理者に提出し、管理者以上の職責者が内容を把握している。	○	研修後に、全職員に報告書を回覧したり、ミーティングの場で研修成果を発表するなど、常に全職員が研修成果を共有できる仕組みづくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の管理者会議の役員を引き受けている。管理者同士が熱心に交流を図っており、職員対象の研修会も年に1回開催され、職員の殆どが参加している。	○	現在、3つのグループホーム間で、職員同士の交流を図るため職員同士を交換する企画が進められている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族等にホームを見学してもらっているが、本人が来られない場合は、管理者が訪問するようにしている。利用開始後には利用者と職員がゆっくり話をし馴染みの関係をつくっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して、人生の大先輩として敬う気持ちを忘れないようにしている。利用者には、昔の話やことわざを覚えてもらうなど職員も学ぶことが多い。調理師免許を持っている利用者には、料理を作ってもらい、時には利用者に職員が励まされたりと、共に過ごし支えあう関係を築いている。	○	職員一人ひとりが利用者と、共に過ごし、学び、支えあう関係を築いていくために更なる努力を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、把握しようと努めている。	○	アセスメントシートを活かして、今以上に利用者の思いや意向を引き出していくように、更なる努力を期待したい。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を採り入れ、毎月のユニット会議を通じ利用者が自分らしく暮らせるように、家族や関係者の気づきや意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者と家族の意見を採り入れ、基本的には6ヶ月ごとに作成している。状況変化があったときは随時見直しをしている。	○	安定している利用者の場合も、最新の情報や気づきをもとに見直しが求められる。基本的な見直しについては、最初のステップとしては、状況の変化が生じやすい利用者に関して、3ヶ月ごとの見直しを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への急な受診が必要で、家族が同伴出来ない場合は職員が対応している。美容院や歯科医にも状況に応じて職員が同伴する。	○	今後、掲示板を活用した案内で、地域へ向けて当グループホーム内に「認知症の相談窓口」を設置し、近隣の高齢者への関わりを強化していくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期受診は月2回だが、入居前からのかかりつけ医の受診・往診も希望すれば受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期になった時の「マニュアル・指針」で、職員や医療関係者も交えて利用者・家族に説明し、同意書も作成し、方針の共有化を図っている。	○	今後、終末期ケアの勉強会を持ちケアの方法を学び、利用者の思い、家族の気持ちに注意をはらい支援していくことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	書類やファイルは鍵の掛かる書棚に保管するなど、記録等に関するプライバシーの確保は徹底されているが、利用者ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けなどの配慮は、職員によっては注意が足りない時もある。	○	勉強会を開催し、日常的な確認と改善に向けた事業所全体での取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入浴回数、食事時間等、ひとり一人のペースに合わせ、出来る限り利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえから食後の後片付けまで利用者と職員が一緒に行っているが、利用者の自発的な参加の無いユニットもある。職員は、全員が利用者と一緒と同じ食事を楽しんで食べている。	○	利用者が自発的に取り組む「場面作り」を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後から夕食時間迄で、利用者の平均入浴回数は週2～3回であるが、希望すれば毎日でも入浴できる。入浴を拒否する利用者には、少しでも興味をもってもらえる様に浴室に花を浮かべるなど工夫している。	○	今後は、夜間の入浴の機会作りを段階的に試みていくことを期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体状況や能力を把握しながら、野菜作り、調理、洗濯、掃除など共に生活し支援している。行事は、月1回以上、家族参加の行事も年に2回は実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気象状況や、利用者の体調、希望に応じて散歩や買い物に行っているが、職員の人数も限られているため、必ずしも利用者個々の希望に合わせた外出支援は出来ていない。	○	今後は、実習生・ボランティアを活用し、利用者個々の希望に合わせた外出支援を検討していくことを期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関が、車の通りの多い道路に面している事と防犯上の理由で、玄関は日中も施錠されている。施錠に関しては家族の同意を得ている。	○	利用者への目配り、気配の察知、玄関のセンサー、鈴などの設置等、鍵を掛けないケアの可能性を前向きに検討していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同法人の施設が近く、施設間の連絡網も整備され、防災訓練・避難訓練は、年2回行っている。	○	夜間の緊急時など、地域の協力が得られるように、運営推進会議で話し合いを行っていくことを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態を把握し、食事のバランスや水分摂取量の確保、刻み食、軟菜食などの工夫をしている。献立や食材は外部委託であるが、委託会社の管理栄養士に専門的なアドバイスを受けることができる。	○	きざみ食や軟菜食も、利用者一人ひとりの日頃の様子を観察しながら、一様ではなく、変化させるなど更に細やかな配慮を期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には生花や観葉植物があり、室内も季節感のある装飾・利用者の手作りの作品などで、生活感や季節感を採り入れている。採光も自然光で、居心地の良い環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの物や、好みの家具が置かれ、家族の写真や書・絵が飾られている。出窓が奥行きを感じさせており、利用者はゆったり落ち着いて生活している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。